

各 位

会 社 名 鉦研工業株式会社  
代表者名 代表取締役社長 末永 幸紘  
(JASDAQ・コード番号 6297)  
問合せ先 取締役経営管理本部長 山田 松男  
(TEL. 03-6907-7888)

## 『2018 中期経営計画』の策定に関するお知らせ

2017 年度業績の結果を踏まえ、安定的に利益を出せる収益構造を速やかに回復し、売上拡大を図るため、当社グループは新たな三ヶ年計画「2018 中期経営計画」を編成しました（なお今までの三ヶ年計画は 2017 年度で終了）。以下にその内容をお知らせいたします。

### 1. 基本方針

国内建設市場は、東日本大震災関連の投資ブームは終わったものの、大都市再開発、全国規模の防災減災対策、インフラ老朽化対策、新幹線・高速道路延伸、リニア中央新幹線建設など、社会資本整備が不可欠で、建設投資はこれまでと同水準で推移するものと見込まれております。また建設関連以外で、ニッチな市場ながら海底資源調査や再生可能エネルギーなど、成長が見込める分野があります。さらにアジア、アフリカ、中南米諸国では今後も高いインフラ投資が見込まれます。

このような環境下、当社は“広く世界を見つめて新しい技術を創造し社会に地球に限りなく貢献します”という経営理念のもと、引き続き「売上拡大と高収益の維持」を達成すべく努力してまいります。

### 2. 経営戦略

1) 2017 年度計画利益未達の原因となった特機（特別仕様の受注生産機）の原価アップを二度と起こさぬよう、営業技術部を新設し、見積・受注段階からコンカレントエンジニアリングを強化して見積もった通りの原価でモノづくりができる社内体制を構築します。

(注) コンカレントエンジニアリングとは、営業、設計、調達、製造、その他関連部門が情報を共有し、前工程の完了を待たずに並列に業務を進めること。また後工程のもつ知見を前工程にフィードバックし、例えば量産しやすい構造を意識した設計を行うなど、全体最適や全体を通じたコストの低減をはかる。

2) 業務量の繁閑に応じ、トンネル先進調査、コントロールボーリング、大口径立坑掘削など担当外の工種工事にも対応できる多能エンジニアを育成し、直営工事の比率を高めるとともに

所有施工機材の稼働率を上げて、工事原価を低減します。

3) シニア社員を対象に全社総人員を 10%削減するとともに、経費節減運動を展開して人件費等の固定費を低減します。また厚木工場リニューアル計画を一時停止（工事発注を 2020 年に後ろ倒し）し、償却費等の固定費増加を抑制します。

4) 売上の拡大

- ・当社主力製品のロータリーパーカッションドリルや全自動プラントなどの次世代後継機を国内市場に投入し買替需要を創出します。
- ・中国、韓国・東南アジア、インドなど、夫々のローカルニーズ対応モデルを開発し、高度インフラ投資が継続するアジア市場の需要を取り込みます。
- ・リニア中央新幹線建設工事本格化の機を捉え、コントロールボーリング関連機材販売、コントロールボーリング工事の受注をさらに伸ばします。
- ・海底資源探査や再生エネルギーの技術開発投資を継続し、その実用化を図ります。

5) ONE&ONLY 技術の確立

トンネル関連工事、コントロールボーリング、大口径立坑掘削、温泉開発等の得意工種で業界唯一無二のボーリング施工技術を確立します。

8) 生産性の 10%向上

- ・会議時間の短縮、申請稟議のペーパーレス化、支払のキャッシュレス化、クラウド化による客先・現場から営業・施工資料の検索
- ・VE による原価低減、即納率向上と在庫縮減
- ・社員活性化、女子社員の活用

### 3. 財務目標

		実績		2018中期経営計画(2018-2020)			
		2017年度		2018年度		2020年度	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
売上高	百万円	7,448	6,364	7,980	7,000	8,250	7,400
営業利益	百万円	71	△43	420	350	490	450
当期純利益	百万円	△30	△44	320	280	320	300
一株当たり配当案	円/株	5		6		8	

### 4. 投資

増産、合理化、更新等のため総額 11 億円の設備・IT 投資をおこないます。

1) 厚木工場のリニューアル投資

工場構内に新工場棟を増築、既存工場棟を修理

2) 業務効率化のための IT 投資

販売管理基幹システムを一新。新生産管理システムを本体生産にも導入。

経費精算キャッシュレス化のため会計ソフトを機能追加

- 3) 諏訪工場投資（機材メンテナンスセンターや開発試験場としての機能拡大）

## 5. 研究開発投資

成長戦略を推進するため総額 4 億円の研究開発投資をおこないます。

- 1) 主力製品の次世代後継機の開発
- 2) ダム・グラウチング用のボーリング自動化ロボットの開発
- 3) アジア市場開拓のための製品開発
- 4) 海底資源調査用コア採取ドリルの実用化
- 5) 大容量、地盤改良用高圧ポンプの開発
- 6) 新機構振動ドリルの開発
- 7) ハンマーサブ・ロッドサブの製品力向上
- 8) トンネル先進調査技術のさらなる高度化
- 9) 著しい地質条件下での長尺コントロールボーリング技術開発

以 上